

応用物理学会における男女共同参画活動

Activities for Gender Equality in Japan Society of Applied Physics

応用物理学会男女共同参画委員会¹，首都大学東京²，神奈川大学³

○河西 奈保子^{1,2}，松木 伸行^{1,3}，白石 陽子¹，塩尻 誠子¹

Gender Equality Committee, JSAP¹, Tokyo Metropolitan Univ.², Kanagawa Univ.³,

○Nahoko Kasai^{1,2}, Nobuyuki Matsuki^{1,3}, Yoko Shiraishi¹, Tomoko Shiojiri¹

E-mail: kasain@tmu.ac.jp

日本における男女共同参画活動の始動は、男女共同参画社会実現のために内閣府特命担当大臣が置かれた2001年1月とされているが、応用物理学会の男女共同参画委員会はほぼ同時期である2001年7月に発足し、名称や活動範囲等を変更しながらも現在まで継続して活動を行っている。本委員会が始めた活動のいくつかは現在応用物理学会によって実施されているように、学会内でその重要性が認識され、また、科学技術を通じた社会全般の男女共同参画にも一定の役割を果たしてきた。本委員会での活動を含め応用物理学会における男女共同参画活動を紹介する。

本委員会の任務は、応用物理学に関わる社会における男女共同参画の推進を通して、個人が才能を十分に発揮できる社会の実現を支援する活動に取り組むことであり、2017年度は委員14名とアドバイザー6名（いずれも半数が男性）で活動している。活動範囲は学会内のみならず他学会（海外も含む）や社会一般に渡る。主な活動は以下のとおりである¹⁾²⁾。

(1) 春の講演会における特別シンポジウムの開催：2018年春は6回目の開催となる。4回までは、男女共同参画の第一人者による基調講演と複数の女性研究者による講演を行ったが、5,6回は応物社会における多様性に関する課題を掘り下げて議論する場とした³⁾。(2) 学会内での情報提供と会員の交流：年2回の講演会時に開催されるNEWMAP (NEtwork for Women and Men in Applied Physics、旧女子会) 懇親会や学会機関紙のコラム、Facebook等のSNS、応物ホームページ²⁾を通して行う。(3) 表彰事業：顕著な研究業績をあげた女性研究者・技術者、女性研究者・技術者の人材育成に貢献した研究者・技術者への賞（小館香椎子賞）の表彰。(4) 講演会時の託児サービスの提供。(5) 海外の物理学会での男女共同参画状況や取組みについての調査および交流：日本物理学会と協働して国際会議に参加⁴⁾⁵⁾。2017年度は応物会員の動向から女性研究者が出産育児というライフイベントの多い年齢で研究から離脱している現状についても数値を用いて報告した。(6) 男女共同参画学協会連絡会の活動を通じた他学会の研究者・技術者間の連携。2016年度に実施した研究者・技術者の男女共同参画に関わる大規模アンケートの結果については今後、機関紙で報告する。(7) 女子中高生の理系進学支援：国立日本女性教育会館と男女共同参画学協会連絡会が主催する「女子中高生夏の学校」の企画運営に参画。企業会員が多い本学会は、企業における女性研究者・技術者の活躍の紹介、ロールモデル提示に貢献している。

1年に4回開催される本委員会では、上記の活動を遂行するための議論とともに、男女共同参画のみならず、広くダイバーシティ推進の観点から、応用物理学会会員に関わる諸課題について議論した。今年度は女性研究者も含めた若手研究者の現状に焦点を当てたが、その議論は本講演会1日目特別シンポジウムにて報告する。こちらにもぜひお立ち寄りいただきたい。

本委員会の活動のみでは課題の迅速な解決は困難である。本活動を通し、応用物理学に関わる分野の多様な人材が能力を最大限に発揮できるような環境が社会の発展にきわめて重要であるということ認識し、自身に関わることとして意識する会員が増えることを期待している。

1) 増田ら：応用物理 86,4 (2017) 335、2) <https://www.jsap.or.jp/activities/talent/index.html>、3) 河西ら：応用物理 86 (2017) 612、4) 庄司ら：応用物理 86 (2017) 917、5) 松木ら：応用物理 87 (2018) 56。